

いざというときに慌てない!

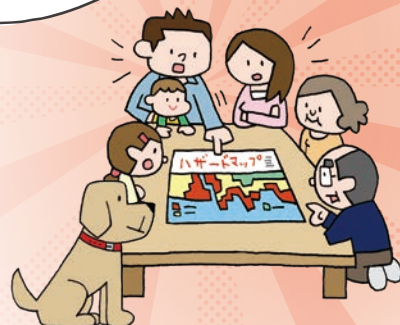


ペットのための災害対策

豊田市では、災害時には全ての避難所へペットを連れて避難することができます。

同行避難
といいます

避難所では、ペットには人の居住スペースとは別の、ペット用スペースが屋内外に用意され、飼い主が持参したケージ内などで過ごすことになります。避難所で他の避難者に迷惑にならないようにし、ペットのストレスも軽減するために、平常時から十分な備えと対策をしておきましょう。



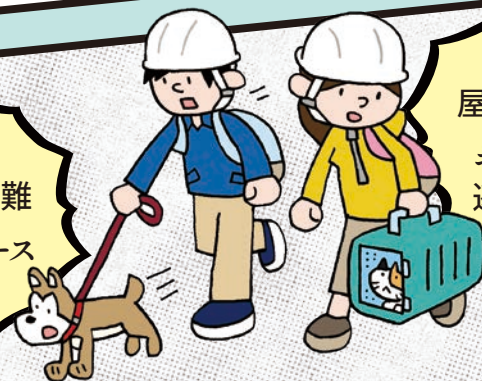
発災時には、まずは自分自身の安全を最優先に確保し、避難してください。普段おとなしいペットでも、災害時はあばれてしまうかもしれません。ペットと一緒に避難できる状況であれば、迷わずペットを同行して避難してください。



避難の方法

犬の場合

首輪・リードを付けて避難
小型犬はキャリーケースに入れる



猫の場合

屋外に飛び出さないように注意
キャリーバックなどに入れて、
逃げ出さない対策をしっかりと

避難所でのペットの世話は、飼い主が行わないといけません。

ペットフードや水、ケージなどの用品は救援物資として避難所に届くまでに時間がかかります。必要なフードや用品を防災グッズと一緒に用意しておきましょう。





しつけと健康管理を心がけよう

避難所でのペットのトラブルを避けるため、日ごろからしつけや感染症予防を行っておきましょう。
緊急時に素早く安全に非難するためにも基本的なしつけは重要です。

猫の場合

- キャリーバックに入ることに慣れておく
- 知らない人にも慣れておく
- 猫用トイレで排泄できる
- 予防接種を受けておく
- ノミ・ダニなどの寄生虫予防をしておく



犬の場合

- ムダ吠えをしない
- 「おいで」「座る」などの基本的なコマンドを覚える
- 決まった場所で排泄する
- ケージに入ることに慣れておく
- 知らない人にも慣れておく
- 予防接種を受けておく
- ノミ・ダニなどの寄生虫予防をしておく

ペットの必需品の備蓄をしておこう

避難中でも、飼い主は自分のペットのお世話はしなければなりません。必要な用品はすぐに持ち出せるように、事前に準備しておきましょう。



- ペットフード・水
- 薬や療法食（治療中の場合）
- トイレ用品・ペットシート
- キャリーバック・ケージ・首輪・リード
- 食器・水入れ
- タオル・ウェットティッシュ
- ビニール袋
- ガムテープ・マジック
- ペットの写真や防災手帳

迷子にならないように所有者を明示しよう

突然の災害時にはペットと離ればなれになるかもしれません。ペットが迷子になっても飼い主のもとに戻れるように、首輪に迷子札をつけましょう。マイクロチップも装着して、二重の対策を取りましょう。

びっくりして暴れたり
逃げちゃうこともあるんだ…
だから外れる心配がない
マイクロチップ、お願いね！

これ、ぼくの身分証なんだ！
鑑札と注射済票、
ちゃんとつけてね♪

(犬の場合)

かかりつけ医をもとう

避難生活では、環境の変化やストレスによってペットの体調が崩れやすくなります。普段のペットの様子分かっている「かかりつけの動物病院」を持つことは、もしものときにペットを守ることができる大切な備えです。

動物病院の情報はこちらでチェック →



避難生活中に体調を崩しても、カルテ情報があれば必要な薬や処置を判断しやすくなります。



避難中の飼育方法についてのアドバイスを受けられたり、不安な状況下で相談できる獣医師がいると安心です。



災害時の預かり体制を確認しておく、預け先としての選択肢が広がります。